

様式 4

<p style="text-align: center;">令和 6 年度第 3 回 富士見市社会教育委員会議 議事録</p>						
日 時	令和 6 年 7 月 1 6 日 (火)		開会	午後 7 時 0 0 分		
			閉会	午後 9 時 0 0 分		
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出席者	委 員	本田議長	渡邊副議長	内海委員	秋元委員	小栗委員
		○	○	欠	○	○
		関野委員	戸田委員	八木橋委員	深瀬委員	
		○	○	○	○	
	事務局	生涯学習課 主任				
公 開 ・ 非 公 開	公開 (傍聴者 0 人)					
議 題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 3 4 期のテーマ決定に向けて <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各会議への参加報告 					

議 事 内 容

1 あいさつ

2 協議事項

・第34期のテーマ決定に向けて

【議 長】 方向性を確認する。これまでの会議で、目指したい姿と現状のギャップを確認してきた。これをふまえ、今後は具体性および実効性のある提言を考えていくこととした。個々の活動をいかに結びつけるか、情報をいかに市民に届けるか、といった点が課題として挙げられた。そこで情報のプラットフォームがあると良いのではないか、という意見が出た。理想のプラットフォームのあり方としては、市内の社会教育に関する団体の活動が一元的に管理されており、自由に情報を引き出せるようなものを想定。しかし実現性を鑑み、今あるものを最大限に活かして理想のプラットフォームに近づけていくことを考えていければという方向になった。

それでは、現状まとめられている情報を確認する。まず生涯学習ガイド。事業・講座と、イベントに分けてまとめられている。その中で、育児・親子向け、小学生向け、中高生向けと対象年齢でまとめられている。またサークル団体情報や講師などの派遣情報も掲載されている。なおこの中のサークル団体情報と市民人材バンクについては別で詳しくまとめられている。公の施設利用団体・サークル一覧について、各施設でまとめられており、6つの分野でまとめられている。富士見市人材バンク登録者一覧についても分野ごとにまとめて掲載されている。どのような項目立てをしているか、担当課はどこか、区分の仕方などを、それぞれ資料にまとめたので、確認いただきたい。これら既存の情報について、こうすればもっといいのではないか、こういう使い方をすればいいのではないか、など、いかに既存の情報を活用すれば理想の姿に近づくか、考えていただきたい。

【委 員】 富士見市のLINEを登録している。そこでイベントカレンダーというものがあるのを知った。市のホームページの中で、月単位でどのようなイベントがあるか紹介されている。市民からすると、いつ、どこで、なにがあるのか知りたいので、どこの課が所管しているかは分からなかったが、この情報源はとても便利だと感じている。

【事務局】 市のホームページに掲載されているイベントカレンダーのことかと思う。これは市のホームページ上で事業やイベントの個別ページを作成し、イベントカレンダーに載るよう日時や内容、施設などを設定することで掲載される。

【委 員】 コンテンツマネジメントの機能としてあるということで、どこが主幹課、というわけではないということか。

【事務局】 ご指摘の通り。

- 【議 長】 たしかにこのイベントカレンダーは理想とするプラットフォームに近しいと感じる。
- 【委 員】 イベントカレンダーのような機能があると知らない人は、ここまでたどり着かないのではないか。ホームページ内にある検索機能を使わないと、知りたい情報がどこにあるのか分かりにくい。ポータルサイトとしてアクセスしやすい形にしてくれた方が、行事などもっと分かりやすくなるのではないか。
- 【委 員】 今はトップページからイベントカレンダーが閲覧できるようになっている。以前よりかなり使いやすく、見やすくなっていると思う。
- 【議 長】 このイベントカレンダーに載っている内容は、市が主催しているものだけか。
- 【事務局】 市が主催でないイベントも掲載されている。ただ、市が関係していないものについては掲載されていないのではないか。
- 【議 長】 生涯学習ガイドでイベント・交流として掲載されているものも、市が関係しているものだけか。
- 【事務局】 市が主催する以外にも、事務局として関わっているものであれば掲載されていると思う。
- 【委 員】 趣味として活動しており、外からの参加者を受け入れていない団体もあるかと思う。そういう団体だと掲載されないということか。
- 【事務局】 市と接点がなければ掲載は難しい。
- 【委 員】 市の掲示板に、小学校で活動しているスポーツ団体が会員を募集するためのチラシを貼ろうとしたが、できなかったことがある。理由を聞いたら、特定の小学校の児童から会員募集を募るものだからとのことだった。それと同じで、参加に制限がかかってしまうようなものだと、掲載されないのではないか。
- 【議 長】 生涯学習ガイドに載っているものはイベントカレンダーにも載っているのか。
- 【事務局】 すべてとまではいかないと思うが、イベント・交流の分野のものであれば、ある程度のものは載っているのではないかと思う。公の施設利用団体・サークル一覧に載っている、各団体の活動日までは載っていない。
- 【委 員】 イベントを開催したい人がどうしたらいいか、という情報はここにはない。企てやすさが課題になってくるか。またこのイベントカレンダーを知っている人はどれだけいるのか。このページを周知していく方法もひとつ課題としてあるのではないか。
- 【委 員】 例えば二十歳式でアナウンスするなど、方法の一つとしてあるのではないか。
- 【議 長】 素材はある。部分的に整理もできている。これらのものを有機的に組み合わせ活用できているか、市民に届いているのか、そこが課題か。
- 【事務局】 生涯学習ガイドは生涯学習課でとりまとめて作成しているが、確かにどれほどの市民に活用してもらえているのか。そもそも市民にと

って見やすいものとなっているのか。知りたい情報を集められているか。課題意識はある。

【委員】 この生涯学習ガイドはどこに置いてあるのか。

【事務局】 各公共施設に閲覧用として配布している。

【委員】 閲覧用とういことであれば、興味がなければ見に行かない。そういう状況だと、市民に広めるといのは難しいのではないか。施設に来る人しか見ることができず、また施設に来るといことは、なにか目的があるということ。わざわざ公共施設に行かないと閲覧できないとなると、生涯学習ガイドを見に行こうという人はいないのではないか。

【委員】 生涯学習ガイドのようにしっかりまとまっていなくても、その時々情報が得られれば。昔は社会教育だよりがあったと聞く。冊子になっていなくても、季刊でもいいから、アナログで発行することは、軌跡を辿れるという点では大きな強みだと思う。

【委員】 広報紙と一緒に配布される公民館だよりがその役を担っているのではないか。

【委員】 介護予防や子育てに関することが多く、若い人は興味を持ちにくいかもしれない。

【委員】 全体に関わることは市の広報で周知できる。地域に関することは公民館だよりや交流センターだよりで周知できる。ただ生涯学習に関することを周知する場はない。生涯学習に関する取組をPRする場を、いかにして設けるか。みんなに見てもらおうという点で考えると、広報紙に載せるしかないか。

【委員】 例えば人権・市民相談課の「いっぽいっぽ」のように、数カ月に1回でいいから、連載ページを持つのも手ではないか。

【議長】 ターゲットの設定が難しい。広報紙を見る人、公共施設に来る人、など、誰をターゲットにするか定まっているといいが、対象ごとに方法を分けるのも必要か。

【委員】 広報紙を見るようになったのは、子どもが生まれて、予防接種の情報が欲しかったから。子どもが生まれなければ、未だに広報紙を見ることはなかったと思う。

【委員】 広報紙でページをもらうというのは、紙幅の都合もあり難しいのではないか。

【事務局】 前回の会議で、イベントの一覧や団体の一覧があるとよいという意見が出たかと思う。イベントの一覧については、市ホームページのイベントカレンダーが理想に近いということだった。団体の一覧については公の施設利用団体・サークル一覧が既存のものとしてあるが、こちらはどうか。

【委員】 活動内容で分類していると思うが、この分類の仕方が難しいと思った。よかれと思って分類しているとは思いますが、その分類に興味を持たない人は見なくなってしまう。もったいないと感じた。

【議長】 興味関心に合わせて、分類を細分化してもいいのかもしれない。

- 【委員】 生涯学習ガイドを市民に広げるため、どういう取り組みを行えばよいか、それが今回のテーマにつながっていくということでもいいのか。
- 【議長】 色々な団体があり、様々な活動が行われている。またイベントも様々なあり、素材はたくさんあるという状況。これは富士見市の社会教育においては強みと言える。しかし、その個々をつなげるものが必要ではないかという意見が出た。そのためには情報を集約するものが必要。それについても、生涯学習ガイドや、ホームページ上にイベントカレンダーなどがあることが分かった。しかし、それが過不足ない状態なのか、使い勝手のいい内容にまとめられているのか。また必要な人に届いているのか。既存のものをもっとうまく活用することができるのではないか、検討の余地がありそうだということが分かってきた。検討するものの一つとして生涯学習ガイドもあると思うが、これだけでなくてもいいかもしれない。どこまでを範囲とするのが良いか。生涯学習課を中心とするか、市全体を想定するのが良いか。
- 【事務局】 提言の実現性を鑑みるのであれば、まずは所管である生涯学習課からだ、実行しやすいかと思う。
- 【議長】 では、まずは生涯学習課が発している情報を起点として検討していくことにしたい。
- 【委員】 確かに話を広げることにはできるが、際限がなくなる。議長の話にあったように、検討する対象をある程度絞って良いのではないか。無関心の人にも情報を届ける必要がある。そこをどうするか。年配の方に対しては、あまりデジタルで発信しても届かず、ある程度アナログな部分も必要。今まで参加していない人にどう届けるか。そういう視点を入れていった方がいいのではないか。
- 【議長】 興味関心がある人、ない人、アナログの方がアプローチしやすい人など、対象者を分けて考えた方がいいかもしれない。
- 【委員】 興味がない人に対しては、その人が情報を欲するタイミングで情報を届けるしかない。ターゲットを決めて、こんな人たちなら興味を持ってくれそうという情報を見定める必要があるかもしれない。子育て世代を対象としてもいいし、30代、40代など、市の活動から離れてしまう世代を対象としてもいいかもしれない。また二十歳式の話があったが、何年か前から1/2成人式が話題になっている。その逆で2倍成人式などを企画して、その世代に向けたアピールをするのも方法かもしれない。
- 【事務局】 作って終わり、ではなく、ターゲットを設定して、そのターゲットに向けて発信するという努力は確かに必要だと感じた。
- 【委員】 生涯学習ガイドの内容を見るに、30代、40代の方が興味を持てる内容は薄いように感じる。高齢者か、子育て世代をターゲットにしている内容に感じる。
- 【委員】 30～40代の方は、なにかをしたいというより、横でつながるということを実践できるといいのではないか。

- 【委員】 そうなると、子どもを介するのがいいか。しかし、自分の今の生活に手一杯な世代であり難しいのではないかと感じる。
- 【委員】 きっかけとなる機会を提供することが肝要で、次につながるかは人それぞれでいいのではないか。
- 【委員】 その世代だと、自分の仕事で培った力を地域に還元する機会があるとよいのではないか。例えば先程委員からお話があった2倍成人式などで、地域への還元ということへ目を向けられるような仕組みづくりができるといいのではないか。
- 【委員】 中学校の部活動の指導が地域に移行する流れになっている。そういう活動につながっていくといいのではないか。そういう学校に関する情報も発信していければと思うが、既存のものにはない。教育委員会の中で意見をまとめていく必要があるのではないか。教育現場の中に入るとなると、金銭や保険、また信用性など様々な課題があるかと思う。その前のきっかけづくりがあるといいのではないか。
- 【議長】 30代、40代の人も、地域の中で居場所を見つけたいという人はいる。なにかきっかけがあるといいのかもしれない。生涯学習課で発行しているものを中心に検討していきたい。また一番大事なのは、ターゲットを設定して、そのターゲットごとにいかに情報を届けるか、活動に入ってくるきっかけをいかにつくるか、次につなげるかということ。次回以降考えることとして、ターゲットをどこに設定するか、そのターゲットの興味関心はなにか、どんな手を打つのがよいか。
- 【委員】 生涯学習ガイドをベースとして考えていくのならば、まずはこれをどう広めていくか。広げるためには興味を持ってもらう必要がある。興味を持たせるために、ターゲットを定めて、手立てを考える、という流れではないか。
- 【議長】 網羅的にターゲットを洗い出すのではなく、生涯学習ガイドに興味を持ってもらうためのターゲット設定という意見だが、他になにかご意見ある方はいるか。
- 【委員】 公の施設利用団体・サークル一覧は、間に公民館の職員が入って、活動している人をつないでくれる。人材バンクも、担当の職員に相談すれば登録者の方を紹介してくれる。どういう人が登録しているか、生涯学習課が把握しているので、一覧に載っていないことでも調整してくれる。人が間に入ってやり取りできるので、アナログ派の人にとっても、とても使いやすい制度になっている。生涯学習ガイドの方は、どうやったらアナログ派の人にも使いやすくなるか。
- 【議長】 人の介在、ナビゲーターの存在は確かに大事なこともかもしれない。では委員から意見があったように、この生涯学習ガイドの内容に興味を持ってもらうためには、どういう人をターゲットにして、それはどういう人で、どんなことに興味関心があって、どんな策を打つと良いか、そういう順序で考えていくということによいか。
- 【委員】 生涯学習ガイドを広めるためにどうするのか、ということ的前提として考えていければ。

【委員】 表現の仕方なども改善案を考えてよいのか。たとえばフローチャートをつけるなど、よりおもしろく使ってもらう工夫もできるのではないだろうか。

【議長】 既存のものに手を加えないということではなく、より良くなる意見があるのであれば、それも必要かと思う。広めるというのは、リーチする、周知する、というだけでなく、もっと使ってもらうということも含めて考えていければよいのではないか。

【委員】 このガイドにたどり着いてもらうためのことを考えていくことが最初ではないか。このガイドを知ってもらうためにどうするか、ということを考えるべきではないか。例えば以前市で市内をまわるクイズラリーを開催していたと思うが、その中に入れるなど、入り口をなるべく参加しやすい所に設定して、たどり着いてもらいやすくする。せっかくあるものを活用しないのはもったいない。これを広めて、そして活用しないとつながっていかない。まずは生涯学習ガイドを知ってもらう必要があるのではないか。

【議長】 たどり着きやすさももちろん重要な要素の1つ。活用しやすい状態にするために、どういう人に、どういうことをやれば関心を持ってもらえるのか。そのためにはどういう情報の載せ方、見せ方をするのがよいのか。この要素もまた検討する必要があるのだと思う。2つの考え方が出た。どのように検討を進めていくのがよいか。意見を伺いたい。

【委員】 知ってもらう、興味を持ってもらう、使ってもらう、その3段階で、どちらも言っていることは同じかと思う。

【議長】 まずは入り口に絞って、どうやってたどり着いてもらうか。次の段階として、中身を考えていくといいかもしれない。まずはこれを読もう、知りたい、と思ってもらうための入り口を考えていく。

【委員】 委員より意見が広がり過ぎているという話もあったが、色々意見を出して集約していくのがいいかと思う。

【委員】 最初色々な意見が出ていて、ホームページの話まで出ていたので、視点が絞れていないと感じていた。社会教育という視点で、その中で検討したほうがよいのではという趣旨で発言した。

【議長】 まずは生涯学習ガイドをいかに知ってもらうか。興味関心を持ってもらうためには、どんな人にどんな手を打てばいいか、意見を出し合っていくことにする。その中でフォーカスポイントを決め、それをより具体化していく。次の話として、知ってもらった人には、生涯学習ガイドについて、もっとこうなっていた方が使いやすいのではないか、など、改善に向けた話が出てくるかもしれない。近日中にフォーマットを作成して共有するので、各委員ご意見を出して頂ければ。

3 その他

・各会議への参加報告

【委員】 入間地区社会教育協議会について、先日社会教育委員部会があった。そこで研修会の打合せを行った。日程について、10月16日（水曜日）の午後、場所はキラリ☆ふじみのマルチホールで開催する。なるべく多くの方に参加していただければと考えている。内容としては、地域再生、社会教育委員や社会教育施設の役割などがテーマになるかと思う。申し込みなど詳細については後日連絡があると思うので、ご都合がつく方はご参加いただきたい。